

他力

― 住職便り ―



第32号（令和六年五月）

専徳寺住職 弘中満雄

【記念事業】

親鸞聖人ご誕生 850年・立教開宗 800年。
浄土真宗は今、大きな慶びの時です。
さらに本年は、専徳寺ができて400年、
また再来年は、専徳寺本堂の阿弥陀如来
ご本尊を迎えて300年となります。

この大きな節目をご縁に、これからの
浄土真宗・専徳寺の法義繁昌を願って、
記念事業に着手したいと思えます。

【三門】

記念事業の内容は三門
（山門）修復を中心とした
境内整備を考えています。
お寺の正門である三門。



専徳寺の三門は、両横に小門を配した
本格的な城門造り。ケヤキ材が使われ、
歴史的にも古く、本堂と同じ24年前の建
立と推測されます。

【聖道門】

三門の名の由来は、仏となるための三
つの修行「三解脱門」といわれます。

- ① 空 解脱：一切の存在は空である。
- ② 無相解脱：一切が空であるが故に、
差別すべき相はない。
- ③ 無願解脱：差別なき故に、願い求め
る（執着する）ことは何もない。

人生の苦悩の原因は煩惱にあります。
修行をつんで執着心の煩惱が消え、
苦悩が解決された境涯を仏といいます。
自らの力で修行し煩惱を断って仏とな
る道、これを「聖道門」といいます。

【浄土門】

親鸞聖人がおすすすめくださった門は
「浄土門」といいます。それは自力修行
と真逆の他力の道。阿弥陀仏の救いの道
であり、本願を聞法してお念仏する道、
浄土で仏とならせていただく道です。

ただ浄土の一門ありて、情をもつ
てねがいて趣入すべし。（道綽）

浄土門は、煩惱をおさえるどころか、
情にもろく、情に流され涙をながす、そ
んな私たち凡夫が通っていける門です。
様々な事情をかかえながら、日々泣き、
笑い、怒るといふ凡夫の心情をさえぎる
ことなく、お浄土への道、仏の道に向か
わせるといふ阿弥陀仏のこの上ない願い
（ご本願）の上に成り立っています。

【門徒と共にある人生】

住職になって16年になります。その間、
60人以上のご門徒の葬儀がありました。
初めて遇う故人もいれば、お茶をのみ
ながら笑いあった人。議論で白熱した人、
悩みを聞いて泣いた人。旅行にいった人、
そして共にお念仏を喜んだ人。

「すべては如来大悲の出来事なり。」
どの方々も浄土真宗・専徳寺の門をく
ぐった「ご門徒」であり、そして私の人
生にとって、なくてはならない方々です。

「またお浄土で会えるのですね。」
そんな事を三門を眺めつつ
思う今日このごろです。（終）

